

Fonda Shingaku Juku
News

塾業界の総合情報紙「塾新聞」 貫先生の対談を掲載!

学習塾の総合情報紙「塾新聞」に、菅田進学塾グループ代表清水貫先生の教育対談記事が掲載されました! 今後ますます求められる理系人材をテーマに、人材採用・育成に対する考え方で、熱く語られています。



菅田進学塾グループ 清水貫代表

理系が好きでなければ、その面白さを伝えられない
 千葉(以下C) 理科教育の重要性が指摘される今、塾にもっと理系の人材が必要ではないか? 理工学部出身である清水先生のご意見を伺えますか。
 清水(以下S) 私は必要だと感じています。大学で専門的な学習をした上で小中高までかかっている段階では、「ここまで学んでもらう」という教え方をしなければ、本当の意味の指導ができません。今、子どもたちが勉強していることが大学の理系学部で学ぶ内容にどうつながっていくのか。そのプロセスが見えないまま、問題の解き方を教えることに終始してしまうと、数学や理科の本質が伝えられない。

教育対談 理系の人材は、今後ますます 塾に求められるようになってくるのか?

菅田進学塾グループ 清水貫代表
 VS
 千葉誠(本誌編集長)

理数教科の指導強化が叫ばれる中、塾・予備校業界でも理系人材の確保と育成が急務とされています。女子力とともに理系人材の活用が今後の塾・予備校の生き残りのキーワードでもある。理系出身の菅田進学塾グループの清水貫代表に聞いた。

C 私が中高生の頃、理系の先生は特別な存在として一目置かれていました。理系の先生は特別な存在と

「面白くはない」と感じてくれているのでしょうか? 技術的な問題解決は指導できるかもしれませんが、理科の楽しさを伝えられるかどうかは疑問です。
C 私が中高生の頃、理系の先生は特別な存在として一目置かれていました。理系の先生は特別な存在と
C 理系の大学に進学しないとしても、国立大学の入学には理科や数学が必要になります。また、大学から先を考えた場合、どんな職業に就くにしても、今後ますますロジカルな理数的思考力が求められるようになってくると思います。塾でも小中高生の理数系の知識レベルのある程度

た。生徒にとって、理系の先生は頼りがいがあると思われるものではないでしょうか?
S 生徒が手も足も出ないような問題を、ぱっと解くから「わっ!」あの先生すごい! となるので、文系の先生で問題を見てきた人も多少同じだと思います。
 「今でしょ!」とおなじみの東進ハイスクールの林修先生ですが、実は、特に理系の難関大学を受ける男子生徒に絶大な人気があるのです。おそらく、林先生は理系の頭脳持ちなのでしょう。だから、林先生の解説を聞いて理系生は受かるのだと思います。

C マスターやドクターを積極的に採用したい

だ。と初めて知り、感動してしまっただけです。受験生たちに国語をこらまで教えてきたのは、文系の先生方だったと思います。文系だからといって国語の適切な指導ができるとは限りません。自分の感性だけに頼って問題を説いてきた人も少なくないのではないのでしょうか?
S とても熱心に生徒を指導しています。理系に進んだ講師です。その楽しさを十分に伝えることができます。
 マスターやドクターは塾にとって貴重な存在です。だからこそ「塾に就職して正解だった」と思ってもらえるような待遇を用意しておかないといけません。

塾生社員も教えています。これからも、ドクターやマスターを積極的に採用していく方針です。
C マスターやドクターの塾での活躍はいかがですか?
S とても熱心に生徒を指導しています。理系に進んだ講師です。その楽しさを十分に伝えることができます。

特別コラム 理系人材育成の現状
 大学院生の派遣
 東京大・京都大・東工大・早稲田大・慶應大・東北大・筑波大・神戸大・九州大の二大八企業は、今年一月、企業に大学院生を派遣の制度をする一般社団法人「理系協同イノベーション人材育成コンソーシアム」を立ち上げ、二万人のアーバースを作り、三年間で二〇〇〇人を企業に派遣する。企業には、三菱重機・東レ・三菱工業・パナソニック・日立造船・村田製作所・ダイキン工業・DMG森精機の八社。

最近では理系の女子が増えています。生徒に対する勉強への動機付けは女性の方が上手な気がします。塾には男性よりも女性の方が合っているような気もするのですが...。
S 理系の女子には期待していますが、採用に関しては男女のバランスが必要だと思います。塾の人材には多様性が必要です。いろいろなタイプの講師がいなくてはいけません。人が健康に生きるためには、すべての栄養成分を必要とします。そして、何かひとつが足りなくなると健康を害してしまいます。しかし、身体に良いとされている栄養成分を多く摂れば摂るほど健康になれるという考え方は誤りです。これと同じで、理系も文系も、男性も女性もバランスよく採用してこそ、塾は総合力を発揮して健康やかに成長できるのだと考えています。
 (一〇一四年三月二十八日 千葉市緑区の菅田進学塾本部にて)



▲「塾新聞」第4号 『教育対談』より